

連結損益計算書分析

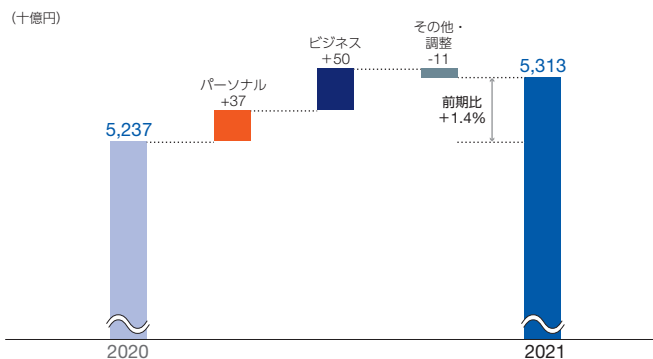
(3月31日に終了した各決算期)

売上高

5兆3,126億円

[前期比]  1.4%増

au通信ARPA収入と端末販売収入の減少を、成長領域であるライフデザイン領域およびビジネスセグメントの増収で補い、売上高は前期比1.4%増となる5兆3,126億円となりました。

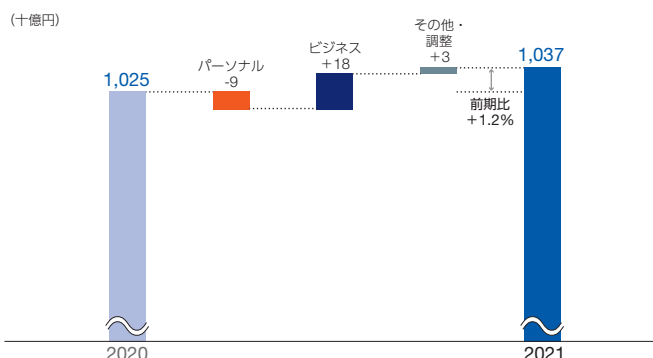


営業利益

1兆374億円

[前期比]  1.2%増

エネルギー事業における一時的な減益要因や、au通信ARPA収入による収入減少を、ライフデザイン領域(エネルギー事業除く)やビジネスセグメントといった成長領域の増益で補い、営業利益は前期比1.2%増となる1兆374億円となりました。



親会社の所有者に帰属する当期利益

6,515億円

[前期比]  1.8%増

営業利益の増加に加え、金融収支の改善や非支配持分利益の減少などが寄与した結果、親会社の所有者に帰属する当期利益は前期比1.8%増となる6,515億円となりました。

1株当たり配当金

120円

[前期比]  5円増

年間配当金は、前期比5円増配となる120円、連結配当性向は42.2%となりました。2020年3月期から2022年3月期までの配当方針については、成長に必要な投資と安定した事業運営を考慮しつつ、連結配当性向40%超を維持し、持続的な利益成長を伴う増配を継続してまいります。